



「特別」を乗じる化学反応

奈良県出身の作曲家でジャズドラマー 平井 景さん

奈良県出身でNHKのテレビやラジオ番組のテーマ音楽を手掛ける作曲家、またジャズドラマーとして活躍している平井景さんは、今秋開かれた春日若宮式年造替奉祝奉納コンサートに出演し、奈良の情景を映す演奏を披露した。自身が率いるプロジェクトのジャズライブが12月25日、学園前ホール(奈良市学園前南)で開かれる。平井さんは「ふるさとのスペシャルな場所、スペシャルな仲間と一緒に、希望が見える音楽を届けたい」と話す。

平井さんは県立奈良高校、東京工業大卒。卒業後、プロ活動を開始した。自身が率いるプロジェクト「平井景スペシャル」は、文字通り一流のミュージシャンと共演し、情景、風景そして物語が見えるライブを演出。「映画を観たような感動」を大切にしている。「奈良は自分の中の中心にある、心の拠り所」と話す平井さんはこれまで、天川村にある天河大辨財神社の能舞台での演奏、県主催の音楽イベント「ムジークフェスト」などでは春日大社でライブを行ってきた。

全ての作曲は自ら手掛ける。奈良県内各地をはじめ、訪れた場所の地形や歴史など「その土地の息づかい」からインスピレーションを得て音を紡ぎ、創作活動に向き合う。NHKのテレビ番組「美の壺」や「まいにち外国語」など、番組音楽も多数制作している。さだまさしさんや、相川七瀬さんらも出演した春日若宮式年造替奉祝奉納コンサート

では、日本を代表するチェロ奏者の一人で、奈良高の後輩になる西谷牧人さん、奈良県出身でバンドネオン奏者の北村聡さん、トランペット奏者の山崎千裕さんと共演「写真」。1200年以上の歴史が息づく厳かな境内で「陽のしずく」や天川村に訪れた際に作曲した「ごろごろ」、多様化・複雑化する新時代に思いを寄せた「平成音楽巻」などの曲とストーリーを披露した。

平井さんは「世界中の人が同時に未知の新型コロナを経験し、生活はもろろのこと、考え方や人と人との関わり方、いろいろなものが変わりました。僕の生活も一変し『あんなにたくさんライブをしていたのに』と、追われる日々から一度頭を空っぽにする機会になったと思います。そうするとヌルヌルと湧き出てくるものがありました。音楽は常に希望を見るものでなければいけないと、再確認できました」

昨日までの普通は、普通で

「平井景スペシャル」年末に学園前で



平井景スペシャル～Concert Tour 2022・Changing～

12月25日(日)、学園前ホール(奈良市学園南3-1-5 西部会館3F)

チケットの購入はBright Sun's Record公式オンライン・ストアから▶



昨年のコンサートの様子を動画サイトで配信



はなくなる。常に変わる中、その一瞬一瞬、今しかないのは「スペシャル」と平井さんは語る。今年の締めくくりになる12月25日、学園前ホールでのジャズクラシック「平井景スペシャル」の副題は「Changing」(チェンジング)。

加えて「音楽は常に希望を見出すものでなければいけないと思うんです。僕自身がふるさと奈良でやるライブは特別で毎年、県内外から来てくださる方は『聴いてみて、どうして奈良なんだという疑問が解けた』と声を掛けてくださることがあります。それほど奈良には「何か」があり、エネルギーがもらえる場所」と語る。

大切な人と、スペシャルな時間を過ごしてもらいたい。年末の「平井景スペシャル」は、特別に特別を乗じて音の化学反応を起こし、その時間を共有する人それぞれが見る希望や幸せの映像に昇華させる。